

いきものだいすき ～ビオトープができるまで～

福島県南相馬市立おだか認定こども園

柴野 慎幸也

1. はじめに

おだか認定こども園の園庭は、ほぼ全体を人口芝で占めています。開園当初の花壇には、花（パンジーなど）が植えられていましたが、水はけが悪く、水があふれたりして育つ環境ではありませんでした。園庭が人口芝で身近な自然の環境が無かったため、園児に自然環境に触れてもらいたいと考えました。園児の中には、虫に興味を持っている子が多かったので、花壇を虫や生き物の棲み処にして捕まえたり観察できたりできるようにしようと思いました。また、虫に興味の薄い園児にも身近な自然に触れられる場所にしていきたくてビオトープ作りを始めていきました。

2. 取り組みについて

花壇（ビオトープ）は、水はけが悪かったため、まず土壌を改善していきました。腐葉土や赤玉土を加えたり、泥遊びができるように粘土質の土も加えたりしました。花壇の中には、身近な草花が少なかったため、できるだけ園周りに自生している植物を植えていきました。また、園児たちが、生き物を探したり、観察したりできるように、石畳の道や高低差のある植物を植えていきました。身近な生き物も増えて欲しいという思いもありましたので、生き物の隠れ家となるように石を組んだコーナーを作ったり、虫が住み着きやすいように草花や腐葉土、石など追加して環境を整えたり、水辺の環境を設置したりしていきました。

3. 結果

土壌を改善したり、園周りに自生している植物を植えたりしていくことで、花壇（ビオトープ）に草花が根付き、水はけがよくなっていきました。また、草花が、成長すると共に昆虫が集まり、園児たちが虫探しや観察を楽しめる環境になっていきました。友だちと一緒に虫探しをしてやり取りを楽しんだり、友だちの良さに気付ける機会になったりしました。エノコログサ、オオバコなどの地域の植物に触れることで保育教諭と一緒に草花で作った冠や指輪作り、葉や花を潰して色水作りを楽しみ、身近な自然に触れて遊ぶ楽しさを感じられる環境になったと思いました。また、水辺の環境では、メダカを見たり、観察をしたりして楽しむことが出来ました。メダカの稚魚を発見すると園児たちで可愛がり、「赤ちゃんメダカいるかな」「(池)石は、入れちゃだめだよ」と稚魚（生き物）を大事にしたい思いが芽生える瞬間を垣間見えました。また、水辺に田んぼのコーナーを作ることによって、トンボが集まり、ヤゴも見られるようになり、園の中で生態系が出来ていきました。ヤゴを見て「トンボの赤ちゃんだよ」と言い観察を楽しんでいました。



人口芝の裏をめぐって、3、4、5歳児でダンゴムシ探しをしている様子。



石畳の石をめぐって下にいる虫探しを楽しんでいる様子。

「何かいる
かな？」



「お兄さん何し
てるのかな？」



「大きいバッタ
いたー！」



「めだかいるー！」
「茎で釣れるかな？」



どうにかしてメダカを捕まえよう
としている様子

4. まとめ

花壇に土や身近な草花を追加することで、園周りの身近な自然に親しめる環境にすることが出来、草花の感触や匂いを感じて遊んだり、虫探しをして楽しんで遊べる環境になっていきました。そして、虫探しを通して友だちとかかわって遊ぶ楽しさや草花、木の葉、木の枝を使って見立て・ごっこ遊びをする楽しさなど身近な自然に触れながら遊べる環境になったと思いました。課題となっていた水はけの悪さや草花の不足は、改善していくことが出来たと思いますが、植物が単一で種類が少ない事と場所が限られており生き物の棲み処が少ない事が今後の課題となっているので、植物の種類を増やして、園児が植物の花や実、葉を使って遊んだり、感触を楽しんだりできるようにしていきたいと思っています。また、花壇の周りの環境をうまく使って生き物の棲み処を作り生育する虫や生き物、草花を増やしていきたいと思っています。